

特別研修

月例研究会 議事録 (11 月)

2010 年度第 10 回

報告題名 農商工等連携の事例分析と JA 仙台の秋保プロジェクトの意義	
報告者 小賀坂 行也	日時 11 月 18 日 午後 3 時～
(所属分野) 農業経営経済学分野	場所 第 2 講義室
座長 滝田	議事録担当者 中村
出席者 長谷部、木谷、安江、小山田、両角、米澤、米倉、冬木、伊藤、石井、阿部、菅井、韓、Deffi、大友、小賀坂、スチン、宮本、佐々木、福田、水木、宮里、渡邊、威廉、易思、王、北村、金、滝田、タンボウニ、中村、堀、山口、泉井、Intan、Sudirman、Lies、金、黄、小原、片山、佐々木、澤田、柴田、渋谷、千葉、藤、八鍬	
報告要旨 平成 22 年に農商工等連携促進法が施行されたが、それ以前からも全国で多数の取り組みが行われてきており、本県においても現在様々な取り組みが行われている。 秋保地域は、仙台の奥座敷と呼ばれ温泉を抱える観光地であるが、昨年度の宿泊客 88 万人と 5 年前のピーク時より 15%減少している。そうした中で、秋保温泉旅館組合に加盟する 12 の旅館・ホテルと秋保の生産者が連携して、地元で採れた農産物を地元で消費してもらうという取り組みが平成 21 年度より始まった。取り組み 2 年目の平成 22 年には、宮城・仙台富県チャレンジ応援基金事業に採択され、今後のさらなる取り組みが期待されている。 本報告では、今後の研究計画を提示するとともに、全国の農商工等連携の事例をもとにその成功要因等を明らかにし、現在展開している JA 仙台の秋保プロジェクトの意義について検討する。	

質疑・応答

滝田：魅力ある農産品等の開発として食用ほおずきの試験的栽培とありますが、これは秋保周辺で伝統的に栽培されていた作物なのか。

小賀坂：食用ほおずきは秋保の伝統的な作物ではない。秋保は高齢者が多い地域であるため、栽培や収穫に手間がかからない作物が前提であった。話し合いの中で旅館からの要望もあり、食用ほおずきの栽培が行われている岩手や山形の視察を経て、食用ほおずきを取り入れることとなった。

長谷部：研究のテーマは農商工連携となっているが、秋保での取り組みを扱う意義はなんなのか。

小賀坂：全国の農商工連携の事例の中でも観光分野や地域興しに焦点を当てており、今後は全国のそういった事例と秋保の事例を比較していきたい。

長谷部：研究の全体的な枠組みの中で、秋保の事例がどのような位置づけになるのかをはっきりさせる必要があると思う。

菅井：秋保の場合は農商工の「商」が特に強いということがキーポイントとなると思うが、その引っ張っていくべき「商」の観光客が減っている原因、打開策はどう考えているのか。

小賀坂：宮城県内の松島などの他の地域でも落ち込んでいるが秋保では特に顕著となっており、何らかの原因はあるのだと考えられるがまだわかっていない。打開策としては、旅館にとっては食の部分の強めることに魅力があると考えられ、食を強めるために現在の取り組みを始めた。また、農業体験に関しては、仙台には近場で農業を体験できる場所がたくさんあるためそれほど魅力的ではないかもしれないが、県外から来た方も大切にしなければいけないと思う。

安江：成功事例については多く聞かれ分類もされているが、失敗事例はそうではない。徹底的に失敗事例についてまとめてみてはどうか。また、その失敗事例について、JA仙台で把握できるのか、事例をきちんとフォローすることは可能か。

小賀坂：補助事業を利用した失敗事例の情報を得ることは出来るが、個別の案件について調査することは難しいと思われる。現時点では失敗事例について具体的にどのように調査を進めるのかははっきりしていない。また、何をもちて失敗とするのかという問題もある。

安江：簡単に言えば、やらなければよかったというような場合が失敗事例に当たるのではないかと思う。

冬木：農商工連携と6次産業化はどう違うのか。

小賀坂：農商工連携には相手があり、二者間以上での取り組みのことであり、6次産業化は全て一者で行うことと理解している。

冬木：補助事業を利用した事例に対する評価は、悪い評価を付けられた場合には補助金の償還をしなければいけない場合もあるため、何らかの成果があったと評価されていることもある。失敗事例は事業の評価の中では生の状態では現れないため、可能であるならば自分自身の目で評価をする必要があるのではないかと思う。

米倉：小賀坂さん自身はこのプロジェクトにどのような立場で関わっているのか。それと、現時点ではどのような点が論文のテーマとなるのかよくわからないので、方向性について聞きたい。

小賀坂：プロジェクトには企画をする立場として関わっている。論文のテーマに関しては、現時点でははっきりとは定まっていないが、事例を分析するうちに定めていきたい。